

令和3年6月末の在留外国人数は、282万3,565人（出入国在留管理庁ホームページ）で、訪日外国人旅行者数は新型コロナウイルス感染症の拡大により、前年と比べ減少しているものの、在留外国人数には大きな減少は見られないことから、消防職員が外国人と接する機会は増えてきています。

この研修では、消防職員を対象に、非常時において外国人を救援救助する活動が迅速・的確に行えるよう、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、そのために必要な知識や方法を学びます。

受講を希望される場合は、**令和4年2月9日（水）**までに「**令和4年度 JAM 年間派遣計画書**」をFAXによりお送りください。申込手続きの詳細は、「令和4年度研修計画」をご参照ください。

消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～

（日 程） 5月11日（水）～5月27日（金） 17日間

（内 容） ・自治体の危機管理

※予定

- ・異文化理解
- ・地域の国際化と多文化共生
- ・自治体の事例紹介（外国人への情報提供等）
- ・スピーチコミュニケーション
- ・外国人観光客への対応
- ・施策立案演習
- ・語学研修
 - 共通：英語
 - 選択：中国語又はポルトガル語 など

（対 象） 消防職員（自治体の防災担当職員含む）

（受講経費） 概ね 72,000 円

（予定人数） 30 名



講義風景



救急ボイストラを使った実習風景

■ コースの特長

- 語学授業については、受講者の語学レベルに応じた少人数のクラス編成を行いますので、安心して学ぶことができます。
- ロールプレイを取り入れて、けがをした外国人に英語で様子を確認するなど、実際の状況を想定して再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。
- 第二外国語として、中国語とポルトガル語の2言語から、地域の事情に即した言語を選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。
- 講義や演習等を通して、全国各地の消防職員と意見交換をしながら、議論を深めることができます。
- JICA（国際協力機構）からの研修生を受け入れる際にも、このコースの修了者が活躍されています。

■ 参加者の声

- 講師が一流で、外国人講師からも授業を受けることができ、内容が充実していました。
- 全国の消防本部での取り組み事例を学ぶことができて良かったです。

当研修所では新型コロナウイルス感染症の感染予防・感染拡大の対策を講じたうえで、研修を実施しております。詳しくはホームページをご覧ください。（<https://www.jiam.jp>）